

鳥取縣公報

縣令

昭和廿一年五月一日
號 外

水曜日

本報ノ大サハ國定規格A5列

◇鳥取縣令第三十三號

境港港内施設使用料條例ヲ左ノ通定ム

昭和二十一年五月一日

鳥取縣知事 林 敬 三

境港港内施設使用料條例

第一條 本條例ニ於テ港内施設ト稱スルハ縣ニ於テ指定シタル上屋、野積場、物揚場ノ三種ヲ謂フ

第二條 港内施設ヲ使用セムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受ケベシ

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ別紙様式ニ依リ境港務所ヲ經由出願スベシ

第三條 港内施設ノ使用許可ハ使用申込ノ順位ニ依ル知事ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ許可ノ順位ヲ

變更シ又ハ既ニ許可シタル使用ノ停止若ハ制限ヲ爲スコトアルベシ

第四條 港内施設ヲ使用スル者ニ對シテハ左ノ使用料ヲ徵收ス

但シ知事ニ於テ必要アリト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラザルコトアルベシ

種別	面積	一日間
上屋	十平方 米	二、〇〇
野積場	十平方 米	一、〇〇
物揚場	十平方 米	〇、八〇

使用時間二十四時間ニ滿タタル場合ト雖モ其ノ端數ハ一日トシテ計算ス
十平方米未滿ノ端數ハ十平方米トシテ計算ス

第五條 使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ使用料ヲ納付シタル後ニ非ザレバ使用スルコトヲ得ズ

第六條 港内施設ノ使用ニ付許可ヲ受ケタル者之ヲ使用セザルコトアルモ既納ノ使用料ハ之ヲ還付セズ 但シ第三條ノ規定ニ依リ其ノ使用ノ停止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ此ノ限りニ在ラス

第七條 使用者不正行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レムトシタルトキハ期間滿了前ト雖モ其ノ使用ヲ停止シ若ハ使用料ノ徵收ヲ免レムトシタルトキハ料金ノ五倍以内ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトアルベシ

第八條 使用期間滿了後正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ廢止セザルトキ又ハ許可ヲ受ケスシテ使用シタルトキハ五倍以内ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトアルベシ

第九條 使用者其ノ施設ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ之ヲ原形ニ復セシメ又ハ其ノ復舊ニ要スル費用ヲ賠償セシムルコトアルベシ

第十條 使用地ニ設置中ノ貨物又ハ物件其ノ他一切ノ損害ニ對シテハ縣ニ於テ賠償ノ責ニ任ゼズ

第十一條 港内施設ノ使用ニ付テハ總テ境港務所員ノ指揮ニ從フベシ

第十二條 使用者ニシテ本條例ニ定メタル義務ヲ履行セザルトキハ設置中ノ貨物又ハ物件ヲ知事ニ於テ適宜處分シ若ハ使用者ヲシテ之ガ費用ヲ負擔セシムルコトアルベシ

第十三條 港内施設ノ管理並ニ使用料ノ徵收ニ關シ必要ナル事項ハ知事之ヲ定ム

附 則

昭和二十一年十二月縣令第七四號境港並ニ米子港物揚場使用規則ハ之ヲ廢止ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條別紙様式

境港港内施設使用許可願

一 使用箇所	
一 使用目的	
一 使用面積	幅長 米米 平方米
一 使用期間	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日

一 使用料金 御指定ノ通り
右御許可相成度此段及御願候也

昭和 年 月 日

住所

氏 名 圖

鳥取縣知事殿

◇鳥取縣令第三十四號

昭和七年二月縣令第八號境港灣取締規則中左ノ通改正ス

昭和二十一年五月一日

鳥取縣知事 林 敬 三

第十一條中「總噸數二十噸以上積石數二百石以上ノモノハ」ヲ「總噸數十噸以上積石數百石以上ノモノハ」ニ改ム
第二十五條「登簿噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上」ヲ「登簿噸數十噸以上又ハ積石數百石以上」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

條 例

◇鳥取縣條例第八號

境港繫船岸壁並ニ繫船棧橋使用料條例ヲ左ノ通定ム

昭和二十一年五月一日

鳥取縣知事 林 敬 三

境港繫船岸壁並ニ繫船棧橋使用料條例

第一條 繫船岸壁又ハ繫船棧橋ヲ使用セムトスルモノハ知事ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ別紙様式ニ依リ境港務所ヲ經由出願スベシ

第二條 繫船岸壁又ハ繫船棧橋ノ許可ハ使用中込ノ順位ニ依リ

但シ知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ許可ノ順位ヲ變更スルコトアルベシ

第三條 繫船岸壁又ハ繫船棧橋ヲ使用スル者ニ對シ左ノ使用料ヲ徵收ス

登簿噸數十噸以上ノ船舶

一ノ繫留二十四時間以内

登簿噸數一噸迄毎ニ金參錢

一 繫留二十四時間ヲ超ユル場合十二時間迄毎ニ
登簿噸數一噸迄毎ニ金壹錢五厘

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石十石ヲ以テ
一噸ト計算シ十石未滿ノ端數八十石トシテ計算ス

第四條 繫船岸壁又ハ繫船棧橋ハ繫船ニ使用スル外貨物又
ハ物件ヲ滯留スルコトヲ得ズ

第五條 左ニ掲グル船舶中第一號、第二號ニアリテハ使用
料ヲ免除シ第三號、第四號ニアリテハ之ヲ減免スルコト
アルベシ

一 官公署用ノ船舶

二 登簿噸數十噸未滿又ハ積石數百石未滿ノ船舶

三 毎月一回以上入港スル定期船舶

四 其ノ他知事ニ於テ特別ノ理由アリト認ムル船舶

第六條 境港務所員國籍證書又ハ鑑札ノ提示ヲ要求シタル
トキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條 使用者繫船岸壁又ハ繫船棧橋若ハ其ノ附屬物ヲ毀
損シタルトキハ之ヲ原形ニ復セシメ又ハ其ノ復舊ニ要ス
ル費用ヲ賠償セシムルコトアルベシ

第八條 許可ヲ受ケズシテ繫船岸壁又ハ繫船棧橋ヲ使用シ
タルトキ又ハ第四條ノ規定ニ違反シタルトキハ第三條ニ
規定シタル使用料ノ五倍以内ニ相當スル額ヲ徵收シ又ハ
知事ニ於テ適宜處分シ使用者ヲシテ之ガ費用ヲ負擔セシ
ムルコトアルベシ

第九條 繫留中ノ船舶貨物其ノ他一切ノ損害ニ對シテハ縣
ハ其ノ賠償ノ責ニ任ゼズ

第十條 繫船ニ付テハ總テ境港務所員ノ指示ニ從フベシ

第十一條 繫船岸壁又ハ繫船棧橋ノ管理並ニ使用料ノ徵收
ニ關シ必要ナル事項ハ知事之ヲ定ム

附 則

昭和七年二月縣令第九號境港繫船岸壁管理規則ハ之ヲ廢
止ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條別紙様式

境港繫船使用許可願

一 船 名 丸

一 總噸數 噸

登簿噸數 噸

一 繫留場所 米岸壁又ハ棧橋

一 繫留期間 自 月 日 時 分
至 月 日 時 分

一 繫船料御 指定ノ通

右御許可相成度此段及御願候也

昭和 年 月 日 住所 氏 名 圖

鳥取縣知事殿

用料ヲ左ノ如ク改ム

第二項ヲ「十平方米ニ付一日金六錢一ヶ年十八圓」

第三條中「使用者埋立地」ノ次ニ「物揚場」ヲ加フ

第五條中「埋立地」ノ次ニ「又ハ物揚場」ヲ加フ

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 使用者ノ義務其ノ他必要ナル事項ニ關シテ
ハ本條例ニ定ムルモノノ外境港港内施設使用料條例ヲ
準用ス

附 則

本例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鳥取縣知事殿

鳥取縣知事 林 敬 三

鳥取縣訓令第十三號

昭和七年二月訓令乙第三號境港務所事務規程中左ノ通改正
ス

昭和二十一年五月一日

鳥取縣知事 林 敬 三

標題中「港灣埋立地」ノ次ニ「並ニ物揚場」ヲ加フ

第一條中「埋立地」ノ次ニ「又ハ物揚場」ヲ加フ

第二條第一項中「埋立地」ノ次ニ「又ハ物揚場」ヲ加ヘ使
ヲ左ノ通改正ス

昭和二十一年五月一日

鳥取縣公報

號 外

昭和二十一年五月一日

(第三種郵便物認可)

五

第八條第一項中第三號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ第四號ヲ第五號トス

上屋、野積場、物揚場ニシテ期間一ヶ月以内ノ使用竝ニ

繫船岸壁又ハ繫船棧橋ノ使用許可

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

告示

鳥取縣告示第二百十七號

昭和七年一月告示第十五號境港務所設置規程中左ノ通改止ス

昭和二十一年五月一日

鳥取縣知事 林 敬 三

第一條第二號中「境港灣繫船岸壁」ヲ「境港灣繫船岸壁並繫船棧橋」ニ改ム

鳥取縣告示第二百十八號

境港港内施設使用料條例第一條ノ規定ニ依ル上屋、野積場、物揚場ハ左ノ通指定ス

昭和二十一年五月一日

鳥取縣知事 林 敬 三

敬 三

種別	面積	積場	場所
上屋	二、八九八平方米	大正町	
野積場	一四、二九九平方米	大正町	
物揚場	四、三九八平方米	大正町、榮町、相生町、朝日町、入船町、花町	

昭和二十一年五月一日印刷
昭和二十一年五月一日發行

鳥取縣公報

昭和四年四月十五日
第三種郵便物認可

發行所 鳥取縣鳥取市東町
印刷所 鳥取縣鳥取市東町